予防医療による
“三方よし”作戦
～どうぶつとご家族、動物病院のしあわせを目指して～

第１回著者　**工藤 美保**　どうぶつ予防医療協会（APMA）代表理事

第１回　ご家族が定期的に通いたい「ホームドクター」とは

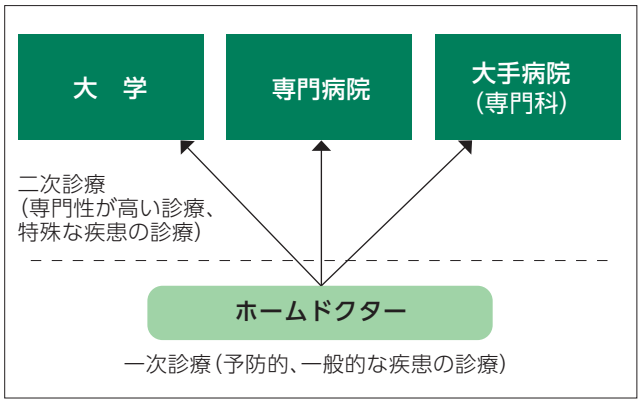
はじめに

日本の動物病院の63％は獣医師が１名の施設となっていて、獣医師が３名以下の施設が全体の約90％です（2020年農林水産省）。この状況から、多くの動物病院がホームドクターとして存在し、ワクチン、フィラリア症や内部・外部寄生虫の予防、定期健診、日常的にみられる疾病の管理や治療の場所として、どうぶつのご家族が来院されています。診断・治療が困難な症例に関しては各獣医科大学、専門科を持つ動物病院、地域の大手病院、などに二次診療として上診されている現状かと思います。

獣医療の理想的な在り方は、人の医療の構造に学ぶべきだと思います。医院（ホームドクター）と病院（専門診療が可能な施設）が連携することで、ご家族と動物病院にとって効率よく、更にどうぶつは、一次診療と二次診療のメリットを享受できるのです。この体系を目指すことが、どうぶつとそのご家族、獣医業界、三方のしあわせに必要なのではないでしょうか。

年齢・体調に応じて適切なケアをしてあげれば、どうぶつが本来持っている健康維持のための最大限の能力を引き出すことができます。また人と同じく、“加齢はしても、老化を最小限にする”ことが可能となります。

多くの獣医師は「目の前の患者をなんとか治したい」という思いから、膨大な量の獣医療の情報のアップデートに努め、特に院長においてはそれに加えて病院の経営、人事管理など、獣医療以外のことにも多大な労力を使い、大変忙しい状況となっています。私は臨床獣医師の経験と30年以上獣医業界に関わり多くの先生方や企業の方とお付き合いさせていただく中で、獣医業界とどうぶつとご家族のしあわせのために**ホームドクターと専門医療の役割分担と連携**をしっかりとることができる業界が理想であると思っています。



今回の連載では、獣医療におけるホームドクターが、どのような観点で病院経営を考え、院長もスタッフも快適な病院運営をし、ご家族に何を伝え何をしていただき、定期的来院でどうぶつの健康も病院の経営も安定する状態を作るための情報を、どうぶつ予防医療協会（APMA）の理事とアドバイザーの先生方にご協力いただき発信して参ります。

APMA公式キャラクター『アプくんとマーちゃん』